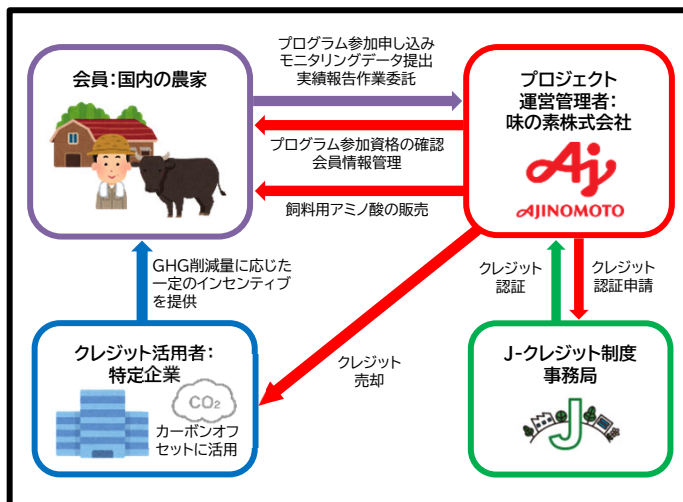


肉用牛へのバイパスアミノ酸添加飼料およびアミノ酸バランス改善飼料の給餌プロジェクト

運営管理者名：味の素株式会社

プロジェクトの概要

対象畜種	肉用牛
対象地域	全国
削減手法	①肉用牛へのバイパスアミノ酸添加飼料の給餌により、肉用牛の生産性が向上し、枝肉重量あたりの温室効果ガス(GHG)排出を抑制する。(方法論:AG-006) ②肉用牛へ慣用飼料に代えてアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物管理からGHG排出量を削減する。(方法論:AG-001) ※ ①と②の併用が可能



プロジェクトの特徴

当プロジェクトでは、肥育段階の肉用牛の飼料にバイパスアミノ酸(牛用リジン製剤・「AjiPro®-L」など)を加えることで、体内で利用されるアミノ酸の量を増加させ、肉用牛の生産性を高めることが可能となります。

牛のげっぷや糞尿からはメタンや一酸化二窒素などのGHGが発生しますが、本取組みによって肉用牛の肥育日数の短縮、もしくは従来と同じ期間肥育した場合の枝肉重量が増加し、単位重量当たりのメタンと一酸化二窒素の両方の削減、そして生産コストの削減が可能となります。

上記の方法に加えて、飼料中の余分な天然タンパク源を減らし、バイパスアミノ酸を活用してアミノ酸バランスを改善した飼料を給餌することで、向上した肉用牛の生産性を維持しながら、糞尿からのGHG排出量と飼料コストの両方を更に削減することができます。

また、本取組みを通じて削減されたGHGをクレジット化し、活動実施者である農家にインセンティブとして還元します。

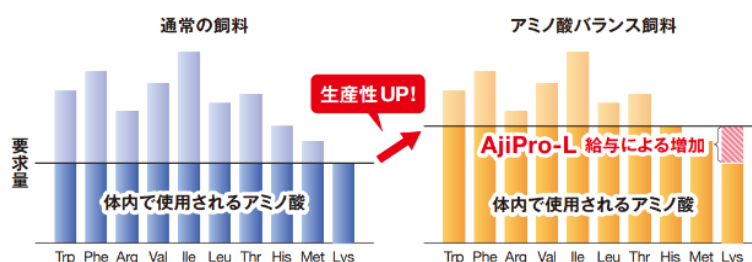
GHG削減量の算定にあたっては、参加農家のプロジェクト実施前後の生産記録などを書類・写真などを活用してモニタリングします。

【モニタリングに使用するデータ (削減手法①の場合)】

1. プロジェクト実施前の飼料設計・給餌量・飼養頭数・飼養日数・枝肉重量
2. プロジェクト実施後の飼料設計・給餌量・飼養頭数・飼養日数・枝肉重量
3. 排泄物管理方法に関する資料
4. 給餌対象の家畜が肉用牛であることが確認できる生産記録

(削減手法① 生産性向上の概要)

リジン強化による生産性改善



プロジェクトに関するお問い合わせ先

味の素株式会社 バイオ&ファインケミカル事業本部 CFS事業部
 所在地: 〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号
 メール: aji_ajipro@asv.ajinomoto.com